

CTス

JMC樹脂、セラなど対応

JMCは、工業用CTスキャンによる受託検査・測定用のサービステクニクを強化する。樹脂やセラミックス、炭素繊維を対象とした需要拡大に対応するため、新たに第3世代CT装置「フエニックス ナノトム エム」を追加導入する。同サービスはX線による製品を断層撮影することで内部状態を非破壊で評価する。ガラス繊維強化樹脂に適用すれば内部欠陥の大きさ・形状・位置や含有するガラス繊維の密度や配向を可視化できる。製品評価のほか3Dデータの活用技術もベースとした各種サービスを提供している。

CTスキャンサービスは、X線透過により金属や樹脂の成形品内部の状態や外から観察できない構造を可視化する。昨年6月に最大管電圧・出力が180kV・15Wの「フエニックス ナノトム エム」と、同450kV・1500Wの「フエニックス ヴィトム エックスシー」の2台体制でサービスを開始。進展する部材・部材の高機能・高品質化を背景に、数分〜数十分という短時間でのスキャンが可能

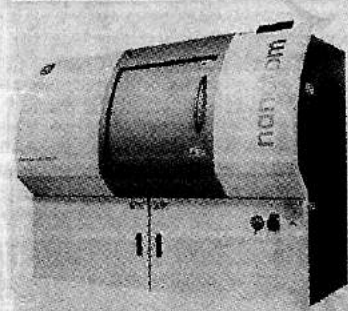
ックス ナノトム エム」は、限界検出能が200ナノメートルで樹脂やセラミックス、生物試料などX線透過度が高いサンプルの内部状態の可視化、内部構造の形状のデータ化が可能。外部形状のデータ化は「フエニックス ナノトム エム」の組み合わせにより、複雑に組み合わされた製品を内部形状も含めて一括でスキャンし、取得した3Dデータをデータ上でパースごとに分解することが可能。同社は体制強化を契機にスピードと品質の両方を備えたCTスキャンサービスを展開していく。

追加投入する第3世代機のナノトム エム

負荷をかけない独自機構に加え、気泡緩衝材などを必要とせず意匠性に優れる点を生かし、主に菓子の発送用向けを狙っている。精密機器の梱包用途以外にも水平展開していく。

同社の緩衝包装材料「オルピタ」通販BOX(写真)は、段ボール紙とポリウレタン(PU)フィルムによる独自設計のパッケージ。高い伸縮性を持つフィルムの性能を生かし、内容物へ負荷をかけることなくシユリンク包装を

が中心だったが、ダブルットPCやスモ木向け需要が好調。小型製品を扱う通販事業者などを中心に需要の拡大も見込まれており、さらなる拡販を



追加投入する第3世代機のナノトム エム

道路ジョ首都高速

横浜ゴムの道路橋用伸縮装置(道路ジョイント)が首都高速工号羽田線に採用され、このほど設置工事を完了した。採用された「YHTIN」型はYHTシリーズをリニューアルして2015年1月に発売した製品。製品内部の止水ゴム部を改良することにより止水性と耐久性を向上するとともに、より幅広い取り替え補修に対応できるよう

蓄光製品の市場拡大

汎用型誘導標識を投入

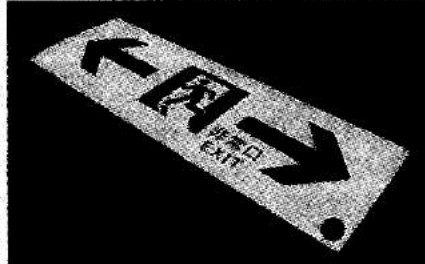
エルティアイ(京都府京都市右京区、坂部昌一社長)は、蓄光製品の市場拡大を目指す。安価で施工性に優れる汎用タイプの蓄光標識製品を市場投入した。ポリエチレンテレフタレート(PET)基材のステッカーで、輝度は中輝度レベルにして価格を抑えた。中輝度でも規格値の2倍の明るさを実現しており、幅広い分野への展開が見込まれる。販路拡大に向け無地シートも展開し、表面保護フィルムとのセット販売も行う。一般消費者向けを含めた戦略商品と位置付け、初年度の売り上げ目標2万枚を目指す。

同社は蓄光樹脂製品を手掛ける。なかでも誘導標識製品「αFLAS H」シリーズは、蓄光顔料の練り込み層で隠蔽層を形成した特殊構造を採用し、100%近い光の吸収と反射時の高い輝度を表現している。

同シリーズではPETに代えてアルミ押出型材を基材にすることで耐久性を高め、製品もラインアップ。いずれもJIS(日本工業規格)で最上級の輝度クラス「JD」に対応している。

このほど市場投入した蓄光誘導標識「TSNシリーズ」は輝度は中輝度レベルで、価格を最大の特徴とするステッカータイプの製品。従来品ではオーパーズベックとなる一般家庭などでの採用を見込み開発した。

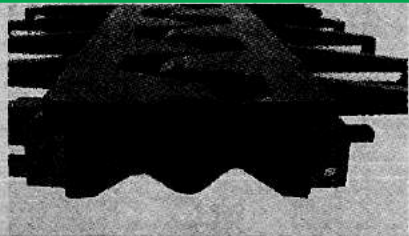
新製品は従来品と同様に特殊構造を採用している。そのため中輝度とはいえ、規格値「JA」の2倍以上である上位値



「JD」を実現している。ステッカータイプのため、剥がしてすぐ使える施工も強みとする。同社はこれらの特徴を生かし、汎用製品と位置付けし、誘導標識が印刷された規格品のほか、無地のシ

ートも展開する。一般家庭以外への販路拡大も視野に入れたもので、シルクスクリーン印刷やインクジェット印刷などに対応している強みを生かし、ラベルメーカーやコンテナツのグッズ展開を行う企業に提案していく。

なお、表面保護を目的とする塩ビ製の透明保護プレートやPET製保護フィルムもセット販売する。TSNシリーズと合わせ生産は外部の協力工場に委託しており、滋賀・石川県の2拠点で行う。



止水ゴム部の改良で耐久性などが向上